

はじめに 1

凡例 3

万葉仮名五十音表 4

祝詞用語表現辞典 あゝを 5

あ 6
い 31
う 54
え 69
お 71
か 87
き 104
く 109
け 115
こ 117

さ 124
し 133
す 146
せ 151
そ 152
た 156
ち 172
つ 175
て 181
と 184

な 194
に 201
ぬ 204
ね 206
の 208
は 210
ひ 218
ふ 222
へ 224
ほ 225

ま 227
み 240
む 253
め 256
も 259
や 264
ゆ 270
よ 277

ら ー
り ー
る 282
れ 283
ろ ー
わ 284
ゐ 288
ゑ 290
を 292

枕詞 299

祝詞の基本構成——祝詞文の組み立て方と用語表現

祝詞文例索引 369

348

【天つ奇護言】

神聖で靈妙不可思議な祝ひごと。祝詞の美称。

〔諸祭式要綱〕一〇一頁―新殿祭〕

天都奇護言以知氏言寿疑鎮白須事乎

天つ奇護言以ちて言寿ぎ鎮白す事を〔最新祝詞選集〕一卷三九四頁〕

〔延喜式〕祝詞―大殿祭〕

汝屋船命に、天津奇護言を以て、言寿ぎ鎮め白さく〔神典〕一二九四頁〕

【天つ菅曾・天つ菅麻】

祓への際に用ゐられる菅。「天つ」は称辞、「すが」は「清」、「そ」は細長いものを意味する接尾語。やがて「麻」の字も用ゐられるやうになった。

〔諸祭式要綱〕続 一二五頁―水泳場開場祭〕

御前爾御食御酒種々乃味物乎献奉里天都菅麻佐也佐也爾清祓乃儀式仕奉里氏

御前に御食御酒種々の味物を献奉り天つ菅麻佐也佐也に清祓の儀式仕奉りて〔最新祝詞

選集〕一卷七〇八頁〕

〔延喜式〕祝詞―六月晦大祓〕

天津菅曾を本刈り断ち末刈り切りて、八針に取辟きて〔神典〕一二九八頁〕

【天津罪】

高天原に起源のある重罪。農耕を妨害する罪。

〔延喜式〕祝詞―六月晦大祓〕

過ち犯しけむ雑雜の罪事は、天津罪と〔祝詞新講〕三〇七頁〕

【天つ祝詞の太祝詞】

高天原に由来する神聖で荘嚴な祝詞。「太」は美称。

〔延喜式〕祝詞―伊勢大神宮六月月次祭〕

天照坐皇大神の大前に申し進る天津祝詞の太祝詞を、神主部・物忌等諸聞食せと宣る

〔神典〕一三〇四頁〕

【天つ日嗣・天つ日繼】

皇祖の靈性を受け継ぐこと。天照大神の御系統を継承されてゐる天皇の

御位。

〔神社本庁例文〕三八頁―紀元祭〕

天都日嗣乃高御座爾坐志氏肇国知食志志与里

天つ日嗣の高御座に坐して肇国知食ししより

〔延喜式〕祝詞―大殿祭〕

天降り賜ひし食国天下と、天津日嗣知食す皇御孫之命の御殿を〔神典〕一二九四頁〕

〔古事記〕上卷〕

僕が住所をば、天神の御子の天津日繼知しめさむ、登陀流天之御巢如して〔神典〕四九頁〕

【穿つ】 穴をあける。貫く。掘る。「うかつ」とも。

〔文例〕掘里穿都大地乃底都岩垣崩由留事無久揺留具事無久

掘り穿つ大地の底つ岩垣崩ゆる事無く揺るぐ事無く

【親族家族】 親族・家族・血族の人々の総称。「うがらやから」とも。

〔諸祭式要綱〕一七頁―結婚式

高伎大御稜威乎尊奉里仰奉里氏親族家族等参来集比列並美氏

高き大御稜威を尊奉り仰奉りて親族家族等参来集比列並みて〔最新祝詞選集〕二卷七〇頁

〔神葬祭の菜〕六九頁―埋葬祭

汝命神上里坐氏与里親族家族悉真心古米氏仕奉里

汝命神上り坐てより親族家族 悉真心こめて仕奉り〔最新祝詞選集〕三卷四七〇頁

【享く】 受け入れる。承諾する。

〔文例〕清伎明伎誠乃礼代登幣帛捧奉里氏乞祈美奉留状乎御心広良爾享介給比氏

清き明き誠の礼代と幣帛捧奉りて乞祈み奉る状を御心広らに享け給ひて

【宇気比】 神に祈つて吉凶を占ふ。神にかけて誓ふ。

〔延喜式〕祝詞―龍田風神祭

天の下のみ臣の作りし作る物を、成したまはず傷へる神等は、我が御心ぞと悟し奉れと

宇気比賜ひき〔祝詞新講〕一八六頁

【集はる・集侍はる】 寄り集まる。参集する。「集侍」は「うごなはりはべる」とも。

〔延喜式〕祝詞―六月晦大祓

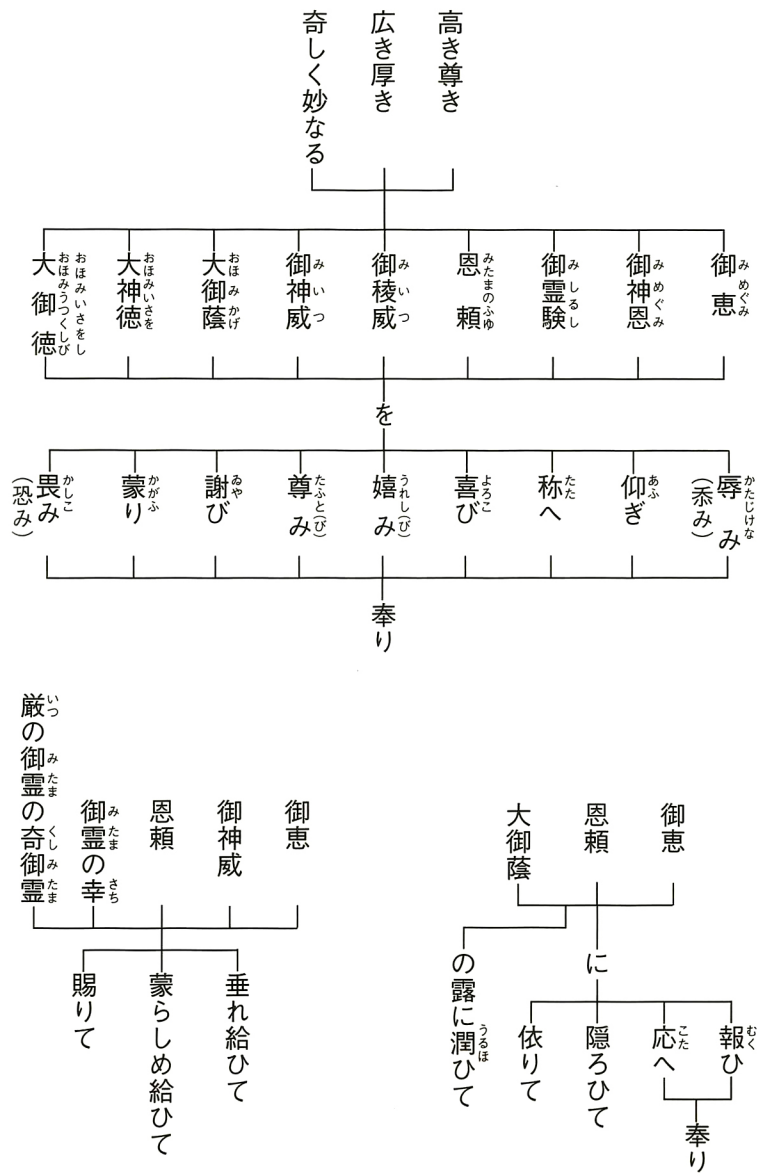
集侍はれる親王・諸王・諸臣・百官人等〔神典〕一二九六頁

〔中臣寿詞〕

天の下四方の百姓、諸諸集侍りて〔神典〕九七二頁

〔延喜式〕祝詞―六月月次祭

集侍はれる神主祝部等 諸聞し食せと宣る〔祝詞新講〕二二七頁



◎ 神徳感謝句の文例・用語表現

- ① 常も御恵を蒙り奉る御氏子崇敬者諸大神等の奇しき尊き御稜威を恐み奉り辱み奉りて
- ② 大神の高き尊き恩頼に依りて喪無く事無く在経る事を喜び奉り謝び奉りて
- ③ 朝夕に勤しみ勞く生業に御霊幸ひ坐す大神の深き厚き御霊徳の千重の一重だに報ひ奉り応へ奉らむと
と嬉しみ奉り忝み奉りて
- ④ 家内安く生業豊げく身健やかに幸く真幸く次々に世を経て今に及べる事は一途に大神の御神恩に依る事
と嬉しみ奉り忝み奉りて
- ⑤ 年普く大神等の高き尊き大御蔭に隠るひて日に異に転樂しく在経しめ給ふ事を喜び奉り謝び奉りて
- ⑥ 此の里に神随も鎮坐して常に御氏子諸を撫で給ひ恵み給へる大神の綾に尊き恩頼を仰奉り称奉りて
- ⑦ 今度大神の最も畏き大御恵の露に潤ひて先に乞祈奉りし願事美らに叶られ志の程をも果ししかば辱み奉り
り謝び奉りて

- ⑧ 大神の広き厚き恩頼賜りて家にも身にも諸の禍事無く弥栄映に立栄え行く事は専ら大神の守り給ひ恵み
給ふ御恵の他は有らじと喜び奉り畏み奉りて
- ⑨ 高天原に神留坐す神漏岐神漏美命以ちて天社国社と称辞竟奉る中に此の大宮を静宮の常宮と鎮坐す大神
の広き厚き恩頼を忝み奉り尊び奉りて
- ⑩ 遠皇祖の大御代より天皇の御代御代受伝へ坐して知食し来る天つ日継の高御座の大元始を歳の首に仰奉
り言寿奉ると為て(神社本庁例文・元始祭)